



2024年7月1日発行
(毎月1日・1回発行)
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行/
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS 7

ユースが社会を変革し続けるために 平和を創る多様な機会を提供していく

横浜YMCAでは、創立150周年を迎える2034年に、どのような社会を目指し、持続可能な地域や社会となるための長期計画「VISION2034」を策定し歩みを進めています。計画では4つの領域「子育て」「生活のクオリティの向上」「ユースエンパワメント」「社会に貢献」を掲げています。今号では「ユースエンパワメント」について考えていきます。



▲公正で平和な地球社会を実現するために社会を変革するユースの活動をサポートしていく

2021年から2024年3月まで横浜YMCAは、創立150周年を迎える2034年に、どのような社会を目指し、持続可能な組織となるための長期計画「VISION2034」を策定し取り組みを進めてきました。2024年4月からの第2期中期3カ年計画では、これまでの計画と「VISION2034」の見直しを行い、第1期における24の重点項目を第2期では16にポイントを絞り、目標達成のための取り組みを進めています。公正で平和な世界に向けて、ユースが自らの能力を最大限に発揮し主体的かつ積極的な貢献によって社会を変革し続けるために「ユースエンパワメント」を掲げています。とくに、ユースの能力を最大限に発揮するためのユース育成では、ユースがYMCAに集い、社会課題と向き合う機会を提供することや異なる背景を持つ人との交流や経験を通し、多様な価値観や文化に出会える機会の充実を図ります。また、ユースの主体的・積極的

な活動をサポートする環境の充実を図るために、YMCAの基金や募金を活用し、ユースの主体的な活動に対する支援の充実やYMCA運動をもっと推進するユースレイパーソンの更なる増強を図ります。YMCAの運動は、産業革命によって引き起こされた社会課題に気づき、課題解決のために「祈り」、情熱と正義感をもって積極的に、かつ献身的に取り組んだユースによって生まれました。そして、創設時から途切れることなく今もなお、社会の課題を見つめ、社会をより良くするために、主体的に取り組む社会変革の担い手としてのユースの存在と働きがYMCAの重要な柱となっています。現在、世界YMCAではVISION2030を策定し「Community Wellbeing」「ミニユニバーウェルビーイング」「Meaningful Work(やりがいのある仕事と雇用環境の創造)」「Sustainable Planet(持続可能な地球のため)」「Just World(公正な世界の実現のため)」の4つのテーマに沿って、世界120の国と地域にあるYMCAが共通の目標を掲げ社会課題に対する取り組みを行っています。すべてのテーマで、ユースは当事者として、より良い未来を主体的に作っていく存在として位置付けられています。その中でも「Just World(公正な世界の実現のため)」では、ユースが社会を変革し、平和を創り出すために、さまざまな機会をYMCAが提供していくことを提示しています。ユース自身が多様性、公平性、包括性、地球規模での社会変革を推進するためには、学びや経験が必要です。YMCAは、そのためにさまざまな機会の提供と支援を行っています。

VISION2034 一人ひとりの存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに育まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくために

各プログラムで活躍するユースリーダー

横浜YMCAでは、2023年度に306人のユースリーダー(指導者)がスイミングや体操、キャンプ、バスケットボール、サッカー、新体操、チアダンス、語学、アフタースクール、オルタナティブ、保育園、高齢者、専門学校などの事業にて活動しています。サマーキャンプでも子どもたちとともに生活やプログラムを行います。事前に行われる研修では、YMCAのリーダーとして対象理解やプログラムのスキル、人間関係などについて学び、理解を深めています。

社会の変革をリードするチェンジエージェント

世界YMCAチェンジエージェント(世界YMCA同盟主催)は、YMCAの若いリーダーが社会の変革をリードし、YMCA Vision2030による運動の広がりを各YMCAやコミュニティーにもたらそうと、ユース120名が世界57カ国から参加しています。横浜YMCAから参加しているユースのスタッフは、10月にケニアで開催予定のグローバルギャザリングに向けてオンライン研修を続けています。

ユースの活動機会をサポート 青少年指導者養成基金

子どもたちの健全な成長を助ける青少年活動には、その導き手となる優れた指導者を養成することが必要であり、横浜YMCA青少年指導者養成基金(青少年基金)は、指導者養成のために行われる研修参加のために基金にて支援を行っています。2023年度は10の活動に182人、総額1,328,769円の基金が適用され、全国リーダー研修会のほか、アジア太平洋YMCA大会、グローバル・スタディーツアーinタイなどの国際プログラムにもユースが参加し研鑽しました。

ユースの将来に向けて インターンシップ受け入れ

横浜YMCAでは、ユースが将来に向けてより良い職業選択につながるよう、インターンシップを受け入れています。学生(ユース)が関心のある企業や団体などにて職業体験を行い、業務内容や働く環境を体験し、理解を深めることを目的としています。2023年度のインターンシップは夏季・冬季合わせて19人が健康教育事業や語学事業などにて取り組みました。今夏は8月26日(月)から9月13日(金)に行われます。詳細・申込みはQRコードをご覧ください。

ホドス

7月、暑い季節がめぐって来た。暑さの中で、渴きを覚える日々には、水分の補給が欠かせないが、同時に「渴き」には「魂の渴き」を覚えることもある。それは、現在も同じである。戦争が各地で起こっており、自分ひとりの小さな働きでは何もできないのではないかと思うことに直面しているからである▼わたしは1989年に、インドのカルカタ(現在の Kolkata)を訪れた。それは、マザー・テレサが始めた「死を待つ人の家」の働きがどのように行われているのかを知りたいと思ったからである。マザーはカルカタの路上で亡くなる多くの人々たちを見て、修道院の中で生涯を過ごすのではなく、路上で命を落とす人々を最後まで受け入れることが大切だと思ふ。「死を待つ人の家」を興したという。その時、マザーの手には、わずかのルビーしか持ち合わせがなかったとのこと。しかし、自分の中にある「魂の渴き」に逆らうことができず、路上で亡くなる人の名前を記録し、最後まで受け入れることが大切だと思ふ、この働きを始めたのだと思ふ。そして、この「死を待つ人の家」の働きは、その後多方面での働きへと導かれて行ったことを、わたしたちは知っている▼わずが、ひとつの命も、いや、ひとつの命だからこそ、その尊厳を覚えることがどれほど大切かを教えられる。わたしたちも「魂の渴き」を覚えるとき、自分の持つてくるわずかなものを差し出すことをさせていただきたいと思ふ。

(ま)

YMCA NETWORK NEWS

Topics

140years of HISTORY 社会的な活動のはじまり(1887年) vol.4

1887年海岸教会の稲垣牧師が第二代の会長になると青年会の活動もキリスト教の伝道集会和自分たちの研究的集会から社会的な活動に広がりました。その前提には海岸教会を中心とした集会が次第に演説会や自分たちの集会の場所を住吉町教会(現在の指路教会)やメソジスト派の天安堂というように他教会を使うようになったことがあり、これは他教会の青年たちが次第に参加したことを示しています。

1888年5月28日には、若葉町天安会堂で横浜青年会臨時総会が開かれ、YMCA活動の拡張の協議が行われ、会館を住吉学校内に設けることや毎週木曜日に講師を招いて講演を開催すること、会員を募集することなどが議決されました。1889年から1890年にかけて青年会は社会的活動として廃娯運動に力を注ぐようになりました。横浜YMCAの会員は、1890年11月の県議会で廃娯が決議に至るまで中心的な運動の推進者として神奈川県史にも記録され、この社会浄化運動にかけた横浜YMCAの情熱は大きな足跡となりました。(参考「横浜YMCA百年史」)



県に提出された廃娯建白書(1890年)▲

ポジティブネットをひろげよう
～今月のよくなる一歩～

へいわ みらい
平和な未来に
む かんが
向かって考えよう!
(Respect 尊敬心)

保育園 命を守る行動学ば 被災地訪問研修

5月18日から19日に横浜YMCA保育園14園の職員30人が仙台市、石巻市を訪問し被災地訪問研修を行った。18日は「仙台・青葉まつり」にすずめ踊りの団体「まつり宝山」の皆さんとともに参加した。「まつり宝山」と横浜YMCAは、2011年9月にすずめ踊りの指導を受けてから13年経った今も交流が続いている。



19日には、石巻市へ移動し、震災遺構の大川小学校と仙台市立荒浜小学校を訪問した。大川小学校では、小さな命の意味を考える会の代表を務め、大川小学校の語り部として活動する佐藤敏郎氏から当時の様子を聞いた。参加した保育士は準備をしながらも災害が起きた時に実行できること、判断できることが大事だ」という佐藤氏の言葉が印象に残ったという。保育事業では研修での学びを各園で共有し、子どもたちのちを守るための備えに取り組みむ。

全国YMCAリーダー研修会 学びと交流豊かな時を共有

「前途洋々～可能性は無限大～」 互いの熱い思い伝え合う



1年に1回全国のYMCAのリーダーが集まり、学びと交流を行う「全国YMCAリーダー研修会」(主催全国YMCAウエルネス担当者会、主管盛岡YMCA・盛岡YMCA)



Aリーダー会は、5月4日から6日に国立岩手山青少年交流の家(岩手県)にて開催された。引率を含め全国から約120人が参加した。横浜YMCAからは、リーダー17人とスタッフ3人が参加した。1日目の開会礼拝では、中原眞澄牧師(秋田飯島教会)から今回のテーマである「前途洋々～可能性は無限大～」に沿ってリーダーたちの可能性についてメッセージがあった。その後行われたワールドカフェでは、理想のリーダー像

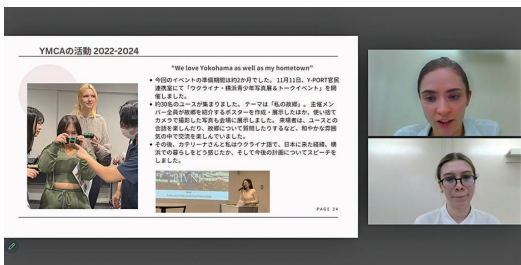
▲「各Y自慢」横浜YMCAの良いと思うことを発表するユースリーダー(右)ユースリーダーたちが考えた「横浜Y」の良いところ

た。気づく力では、とんちが効いた問題をグループで解く中で、正解は一つではなく、それぞれの方を学ぶことができた。3日目には、グループで企画した遊びやゲームに取り組んだ。コミュニケーションセッション(即興)と熟考劇では、相手がどんな人なのか、劇を通して分析し取り組み、ドキドキワークセッションでは情報が載ったカードを使い、各自が持つて

について話し合った。さまざまな視点からの意見が交わり、自らの活動を振り返りながらどのようなリーダーになりたいかについて語り合った。その中には、メンバーだけでなくリーダーからも信頼されるリーダー、小さな変化に気づけるリーダーなどの意見があった。

2日目の選択ワークショップでは発想力、聞く力、発見力、気づく力、自己理解力のある2つを選択して解いた。気づく力では、とんちが効いた問題をグループで解く中で、正解は一つではなく、それぞれの方を学ぶことができた。3日目には、グループで企画した遊びやゲームに取り組んだ。コミュニケーションセッション(即興)と熟考劇では、相手がどんな人なのか、劇を通して分析し取り組み、ドキドキワークセッションでは情報が載ったカードを使い、各自が持つて

ウクライナ支援募金報告 ウクライナニュースが語る



▲日本語で報告したリアさん(上)とカテリーナさん(下)

横浜YMCA国際・地域事業では、6月12日に横浜YMCAウクライナ支援募金報告会をオンラインで開催した。

報告会では、国際・地域事業からこれまでの支援について感謝が伝えられた。続いて、ウクライナ支援募金の使途について、主にユースの日本語学習・就労支援、子どもたちの水泳や体操、アートクラスなどの体験・サマーキャンプへの参加の機会の提供、居場所づくりとしての「みどりクラブ」の取り組みの報告があった。2023年度に寄せられたウクライナ支援募金は、143万8301円となったことが報告されたほか、プログラム時の野菜やコーヒー、

菓子の提供に感謝を述べた。次に横浜YMCAで働くカテリーナさんとリアさんがスライドを用いながら戦争がはじまった際の自分たちの状況や日本へ避難した際の様子、これまでの生活などを日本語にて語った。横浜市内で避難生活を続けるウクライナの人びとのインタビュー動画では、支援への感謝の言葉があったほか、日々の生活の様子や今後の見通しが立たない中での将来への不安な思い、必要とされる支援の話があった。横浜YMCAでは継続してウクライナ支援募金を受け付けている。

視野が広がった。今後のリーダー活動に活かしたい」と語った。引率した飯沼汐音スタッフ(横浜北YMCA)は「全国

のリーダーたちの熱い思いに改めて感動しました。リーダーとともに横浜YMCAを盛り上げていきたい」と述べた。

♪子育てランド♪ 夏バテを予防しましょう!

夏に感じる体のだるさや食欲不振といった夏バテの原因は自律神経の乱れです。夏バテ予防のために気を付けたい生活習慣として、室内と外の温度差は5度以内を心掛けましょう。5度以上の差があると自律神経が乱れやすくなります。また、睡眠時間を多めにとり、朝晩の涼しい時間にウォーキングや室内でできる軽い運動を行い、規則正しい生活を心掛けることが対策になります。

さらに、栄養のある食べ物とこまめな水分補給をしましょう。夏バテ予防には、タンパク質やビタ

ミンB1、クエン酸、ミネラルなどの栄養素を積極的に摂りましょう。豚肉、うなぎ、オクラ、トマト、きゅうり、梅干し、食欲増進のためにショウガや大葉などの香味野菜の活用もおすすです。

保育園では毎年食育として、子どもたちと梅ジュース作りを行っています。梅のさわやかな酸味と甘みが人気です。園庭では夏野菜の栽培を行い、旬の野菜で夏バテ予防と、収穫、食べる喜びを味わっています。

(YMCA東とつか保育園
栄養士 木内紀子)

横浜 AIDS文化F 8月2日から開催

1994年にはじまり、今年で31回目を迎える「AIDS文化フォーラムin横浜」(同組織委員会主催/事務局横浜YMCA)は、8月2日(金)〜4日(日)にかながわ県民センターにて開催を予定している。

みんなの本音が聴ける・語れる場としてのAIDS文化フォーラムは、今年は「伝えるむずかしさ」をテーマに、33のプログラムと展示場での展示が企画されている。

2日午前10時からの開会式後のオープニングでは、エイズ・性教育再考」をテーマに日本エイズ学会との企画により、HIV/AIDS教育のこれまでを振り返り、未来に向けての展望や期待を参加者とともに考えていく。

詳細は4面 ホームページ(QRコード)をご参照ください。



2024年度横浜YMCA会員総会 Webと会場での決議で議事承認

2024年度横浜YMCA会員総会は、5月25日に関東学院大学横浜・関内キャンパスとYouTubeライブ配信にて開催し、183人(会場

141人・視聴者42アクセス)が参加し行われた。

会員総会は、黄崇子常議員が議長を務め、議事進行により行われ、佐竹博総主事から2023年度事業及び会計報告、2024年度活動方針(案)及び予算(案)、廣瀬泰弘総会準備委員長から常議員の選出経緯の説明と提案があった。決議はオンライン視聴者はWebにて決議を行い、承認259人(委任状含む)となり総会構成員過半数を満たし、すべての議事が承認された。



▲(左上)奉仕委員長の若木氏、(左下)廣瀬委員長のユースリーダー(右上)奉仕委員長の若木氏、(右下)佐竹博総主事

書に本間勝氏(4面)と若木一美氏に工藤誠一、遠藤真理、後藤美紀、小室卓重、齋藤宙也、永岡鉄平、徳澤洋子、木上教会、理事、③元横浜YMCA常議員。

今年横浜YMCAキャンプ100周年である。最初のキャンプは1924年6月16日から8月31日まで、市川団十郎邸跡1万坪を無償で借り「YMCA雲雀ヶ丘キャンプ村」として実施した。

ひとかき キャンプ100周年

総主事 佐竹 博

その後「大震災の時にデマによって不当にも迫害を受けた朝鮮の人々への慰安会(中略)その輪を広げて中国の人々へ」とあるのは、1924年のYMCA

く青年たちや家族のためのレクリエーションといった保養としてのキャンプ場に、時を同じくして震災を経験した少年たちが心の保養のために参加するキャンプが「横浜YMCAキャンプの始まり」であることが誇らしい。

このキャンプ開始の1年前には関東大震災があった。YMCAは9月1日の発災から10月31日までは震災救護事業として市民のための今というボランティアセンターを開設し、その後会館復旧などYMCAのための復興事業に移行した。YMCAは自ら被災しつつも市民のために働き、その後自分たちのための活動を始めたところに、社会に・地域に・人びとに仕えるYMCAの姿を見る。

クリスマス会のことである。横浜YMCAキャンプはそのクリスマス会の前、震災1年にかけて行われた。もともと大震災で傷ついた横浜の街を復興させようと懸命に働

FLASH NEWS

6月3日に、横浜YMCAアフタースクール事業では、9つのクラブの子どもたちがタイ・バンコクYMCAパヤオセンターの子どもたちとのオンライン交流プログラムを行った。パヤオセンターの子どもたちによるセンターの紹介後に、横浜の各クラブからはクイズを出し、パヤオセンターの子どもたちからはダンスの披露があり互いに交流した。ダンスでは画面越しに観ながら一緒に踊った。参加した子どもの中には「いつかパヤオに行ってみよう」と交流後に手紙を書き、良い交流のひとつとなった。



今年も「多文化共生を考える講座」(4回連続講座)をNPO法人かながわ外国人すまいサポートセンターと共催し、6月1日に第1回目の講座を行った。同センター理事長である斐安氏を講師に、日本や神奈川に住む外国籍の人びとの実情やすまいサポートセンターの活動を通して見えてきた社会の課題、「外国人とはだれか」など、参加者も意見を交わしながら多文化共生について考える講座となった。

ワイズ ワイズで新たな友を！ コーナー 鎌倉ワイズメンズクラブ

日本のワイズメンズクラブは西と東の区に分かれており、その東日本区に7つの部があり、その下にクラブがあります。毎年6月に東日本区の大会が開かれました。今年は北海道の帯広でした。年間の活動報告や記念講演、夜には晩餐会があり、その地のおいしい料理が並びます。翌日にはエクスカッションもあり、とても楽しい会です。日ごろは自分のクラブ中心の活動ですが、区大会では全国各地のクラブの方にお会いできる楽しみがあります。ついでに旅をする楽しみもあり、新たな友人ができるうれしさもあります。私たちと一緒に楽しみませんか？(鎌倉ワイズメンズクラブ 会長 千葉裕子)

新任含む11人の常議員を選出

2024年度横浜YMCA会員総会では、会則に基づいて常議員の改選が行われ、新任5人を含む10人が選出された。

常議員は6月現在30人で、キリスト教関係者や教育界をはじめ県内のさまざまな分野で活躍している人びとによって構成されている。任期は3年間で、2期を超えて連続して候補者になれないことが定められているため、今期をもって相賀昇氏、今城高之氏、神作正一郎氏、町田零二氏、丸谷士都子氏の5人が任期満了のため退任された。今年改選となった10人のうち、1人が留任、4人が再任、5人が新任として総会準備委員会から推薦された。会員総会において廣瀬泰弘常議員が議長を務める。候補者選考の経緯が

プロジェクトの継続や拡大に貢献された。若木氏は、1974年社団法人横浜ボランティア協会設立時に吉村恭二元総主事と、ユースホステル運動では当時

報告され、次の10人が承認された。氏名①職業②所属教会③YMCAとの関係の順(順不同・敬称略)

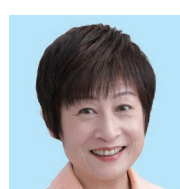
神奈川県ユースホステル協会会長であった高橋四郎元総主事と活動を共にされた。湘南とつがYMCA開設当初から運営委員を務め、2023年から運営委員長に就任し戸塚地域とYMCAのつながりをつくることに尽力された。また、YMCAのユースリーダーとしての働きが顕著で優れたリーダーシップを発揮した31人に奉仕賞が贈られた。最後に工藤誠一理事長が多くの会員の支えに感謝の言葉を述べた。特別プログラムでは能登半島支援活動に派遣された3人のスタッフが現地での活動を報告した。今回の総会資料の配布は、希望者にデータにて閲覧できるようにし、環境への配慮と郵送費の削減に取り組んだ。



工藤 誠一 ①聖光学院 中学校・高等学校 校長。②カトリック山手教会。③横浜YMCA常議員。

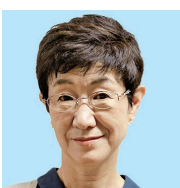


後藤 美紀 ①神奈川大学生生活協同組合職員。③横浜YMCA常議員。



小室 卓重 ①保育士。③横須賀YMCA運営委員。

〈再任〉



遠藤 真理 ②日本福音ルーテル藤が丘教会。③平塚YWCA運営委員。横浜YMCA常議員。



千葉 裕子 ①美術教師。③横浜YMCA常議員、鎌倉YMCA運営委員。



徳澤 洋子 ①病院薬剤師。②日本基督教団厚木上教会。

〈新任〉



岸宗 克明 ②日本同盟基督教団追浜聖書教会。③横浜YMCA常議員、横須賀YMCA運営委員長、国際事業委員。



古賀健一郎 ①海運コンサルタント。②日本基督教団紅葉坂教会。③元横浜YMCA常議員、会員事業委員長。



永岡 鉄平 ①NPO法人フェアスタート代表理事。③元横浜YMCA常議員。

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワグサポートセンター アンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワグサポートセンター レザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 辻山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●新型コロナウイルスの感染・拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■イングリッシュセミナー

日時 7月19日(金)午前10時～正午
 会場 鎌倉YMCA・オンライン(Zoom)
 テーマ My Life in China and Hangzhou
 内容 杭州市と中国人の生活について
 ゲスト Yuchao Pang さん
 参加費 会員1,200円、一般1,500円
 申込み kamakura_info@yokohamaymca.org
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 ○世界各国の多様な文化などを学びます。
■多文化共生を考える講座フィールドワーク
 日時 7月6日(土)午後1時30分～3時30分
 会場 ABCジャパン(横浜市鶴見区)
 講師 藤浪 海氏(ABCジャパン理事)
 参加費 1,000円
 申込み 事前にQRコードにてお申込みください。
 主催 横浜YMCA
 共催 NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター
 問合せ 国際・地域事業 Tel 045-662-3721
 ○多様なルーツや文化を持つ人びとが互いに認め合う社会の中で共に生きるために必要なことを学び、共に考えてみませんか。

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日時 7月11日(木) 午前10時30分～11時30分
 会場 湘南とつかYMCA4階404教室
 テーマ イエス・キリストの教えた生き方
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org

イベント

■第31回 AIDS文化フォーラム in 横浜

日時 8月2日(金)～4日(日)午前10時～午後5時30分(最終日午後4時)
 会場 かながわ県民センター(横浜駅西口)
 参加費 無料
 主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
 共催 神奈川県
 問合せ AIDS文化フォーラム in 横浜事務局(横浜YMCA内) Tel 045-662-3721

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 7月12日(金)午後1時30分～2時30分・27日(土)午前10時～11時

会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 Tel 045-663-0676

■おもちゃの病院

日時 7月13日(土)午前10時～11時、午後1時～2時
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 未就学児と保護者(要予約)
 問合せ 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ Tel 045-663-9715

○壊れてしまったおもちゃはありませんか。おもちゃドクターがおもちゃを修理します。ぜひお越しください。

■プレママ Day

日時 7月23日(火)午前10時～11時
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方
 内容 タッチケア体験とおしゃべりタイム
 問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ Tel 045-780-3205

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

日時 7月6日(土)・20日(土) 午前10時～正午/午後2時～3時30分
 内容 オープンキャンパス、AO入試&学校説明会・高等教育無償化・奨学金

説明会など。参加する時間により内容が異なります。詳細はホームページにてご確認ください。

申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441

■横浜YMCAスポーツ専門学校

日時 7月6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)・20日(土)・21日(日)・31日(水) 午前10時30分～正午、午後2時～3時30分。

内容 学校・入試説明会
 申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 045-864-4990

■横浜YMCA学院専門学校

日時 7月20日(土)午前9時50分～正午
 内容 国際情報ビジネス科学学校説明会
 申込み Tel 045-661-0080
 gakuin-ji@yokohamaymca.org

ご都合が合わない場合はご相談ください。○専門学校では個別の相談や見学も受け付けています。

ボランティア情報

横浜のYMCAでは「ユースリーダー」(指導者)を募集しています。皆さんの個性を活かした活動をしてみませんか。詳細はYMCAへ。

太巻き寿司づくりにチャレンジ みどりクラブ

ウクライナの人びとの地域の居場所「みどりクラブ」は、6月3日に十日市場地域ケアプラザにて寿司づくりを行いました。寿司はウクライナでも特に若い人たちの間で注目されています。参加者たちは寿司を食べたことはあっても、作るのは初めてでした。刺身、エビ、クリームチーズ、キュウリ、アボカドといった具材を自分たちで持ち寄り、太巻きを作りました。自分で作った太巻きを食しながら近況を語り合ったほか、恒例になっている体操も行い、笑顔あふれるひと時となりました。



ワイズメンズクラブ国際協会 第27回東日本区大会

第27回を迎える「ワイズメンズクラブ国際協会東日本区大会」が5月31日から6月2日に北海道・十勝プラザおよびホテル日航ノースランド帯広にて開催されました。湘南・沖繩部には、横浜・鎌倉・横浜とつか・厚木・金沢八景・横浜つづき・横浜つるみの7のワイズメンズクラブがあります。横浜YMCAを支援するクラブとして行事やイベントなどのほか、ユースの成長の一助となる取り組みや子どもたちの成長を支援する活動を続けています。大会では記念講演や年次報告、クラブ表彰などが行われました。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えます。140年のあゆみを写真で紹介いたします。



▲関東大震災の翌年に被災している子どもたちを励ますキャンプを開始。第1回辻堂キャンプ開村式(1924年)



私とYMCAとの最初の出会いは、1961年早稲田大学YMCA信愛学舎に入寮したことです。安い寮費に魅かれたのですが、生涯の恩師と友人たちに出会いました。聖書も信愛で出会いました。学部と修士の6年間で寮長や舎監を歴任するうちに聖書研究の講師や礼拝の奨励を担当するようになりました。

横浜YMCAとは1996年私が勤務していたNTTSOFT関内オフィスにYMCAの長澤勲主事が訪ねて来られ常議員就任を依頼されたのが最初です。当時、私は学生YMCA(以下、学Y)の理事も務めており、学Yと都市YMCAでは随分様子が違うらしいので断りました。長澤主事は3度訪ねて来られ、最後は吉村恭二総主事とともに来られて「学YのOBで横浜在住者を探している。早大YMCA会長植松健一教授の同意も得ている」と語られ、仕方なくお受けしました。

常議員会にて故廣瀬誠先生に出会い「横浜YMCAミヤンマーボランティアの旅(モバイルクリニック)に誘われました。1997年から毎年、2005年元旦に廣瀬先生が現地で亡くなられた後も合計13回参

2015年ネピドーYMCA 25周年記念会に廣瀬誠先生の妹廣瀬恵子さんとともに招かれYMCA新館の定礎式に参列しました。その新館建設が今、クーデータ下で着々と進められ、平和再興と希望の象徴となっています。

加しました。現地パーティのメルビンさんはカレン族の牧師で、父親と祖父が日本兵に殺され、日本への復讐を誓って育ちました。人種差別により一般大学に進学できず、神学校に進んで牧師になり、聖書ロマ信徒への手紙12章「自分で復讐するな」に出会って日本への復讐を断念し、アジア学院に留学して有機農業を学びました。東京空襲で戦災孤児となった私と通じるものがあり肝胆相照らす仲となりました。

2003年に三男のジャクソンさんがアジア学院に留学する際、山根誠之元横浜YMCA総主事と長澤勲さんのご依頼で妻の会が身元保証人になりました。2012年民主化後最初のミヤンマーYMCA同盟全国集会がネピドーで開催され、その冒頭に「廣瀬医師記念ホール」献堂式が行われた際、ゲストとして招かれ、田口努前横浜YMCA総主事と故金子功表の会元会長の祝辞を代読しました。



▲ミヤンマーYMCA同盟全国集会にて故メルビン氏と(中央右/2012年3月)

My Y Story 174 学Y、横浜Y、ネピドーY

「奉仕の書受賞(2024年) 国際事業委員・草の根ネット委の会代表幹事・技術士(情報工学) 本間 勝

「恩寵の出会いと交わり」